

日本農業労災学会 Newsletter

第13号(No.13)2019年3月25日発行

●発行：日本農業労災学会事務局

〒184-0004 東京都小金井市本町1丁目8番14号

サンリーブ小金井305

キリン社会保険労務士事務所内

電話番号 042-316-6420/FAX 042-316-6430

E-mail : kuroda@kirin-office.com

ホームページ : <http://jfapr.jp/>

会員各位

日本農業労災学会

会 長

門間 敏幸

第6回大会実行委員長 北田紀久雄

2019年度（第6回）シンポジウムの開催について

平素より学会活動につきましては、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第6回シンポジウムについての開催概要がまとまりましたので、ご案内をさせていただきます。多くの会員の皆様、この分野に関心をお持ちの皆様をお誘いの上、是非ともご参加いただきますようご案内申し上げます。

2019年度（第6回）シンポジウム開催概要

1. 開催日時：2019年5月17日（金） 10：30～17：00
2. 会 場：東京農業大学世田谷キャンパス横井講堂（東京都世田谷区桜丘1-1-1）
（農大アカデミアセンター 地下1階）
3. 主催団体：日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会3研究部会
（労災対策研究部会・就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会）
4. 後援団体：JA 連合組織、JA 単協など

■第6回シンポジウムのテーマ

「GAPを活用した農業労働安全対策の組織的・戦略的展開」

■開催趣旨・ねらい

日本農業の国際化、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、食品の安全性、環境の保全、そして労働安全の確保を目指す農業生産工程管理(GAP)の導入が推進されている。農林水産省の調査(平成28年3月)では、全国で2,832の産地がGAPに取り組み、そのうち36%がJAグループGAP、24%が都道府県GAPを実践している。しかし、GAPの導入効果分析に関するアンケートを実施した(独)農研機構の調査結果(平成25年1月)を見ても、GAPの導入目的は売上・販路拡大と生産物の安全・安心確保が中心であり、安全な労働環境の整備を目的とする取り組みは極めて少ない。また、GAP導入効果に関して「農作業事故件数の減少」の指摘も少ない。

GAP導入の3つの目的の1つである「安全な労働環境の整備」を如何に実現して農作業事故を防止するかは、高齢化と企業化が並進している農業現場のきわめて重要な課題である。そのため、現在のGAP導入がなぜ、農作業安全対策の実現に結びついていないのか、その課題を明確に整理するとともに、GAPと農作業安全の取り組みを組織的・戦略的に実践できる方法について検討したい。

5. プログラム

1) 受付開始	10:00～
2) 主催者挨拶： 学会会長・門間 敏幸(東京農業大学 名誉教授)	10:30～10:35
3) 開催校挨拶：	10:35～10:40
4) 座長解題：白石 正彦(東京農業大学名誉教授・総研農業協同組合研究部会長) 堀内 政徳(堀内社会保険労務士事務所所長)	10:40～10:50
5) 基調報告	
第1報告 GAPによる安全な労働環境整備の戦略的な実践方法について 門間 敏幸(日本農業労災学会会長)	10:50～11:20
第2報告 第三者認証によるGAPの現況と労働安全 荻野 宏((一財)日本GAP協会事務局長)	11:20～11:50
<休憩・昼食>	11:50～13:10
*第9回理事会(会場は当日案内)	11:50～12:40
*第7回会員総会:(会場:横井講堂:*シンポと同じ)	12:40～13:10
第3報告 団体でのGAPの取組と農作業安全対策の実践 城向 孝洋(JA全中JA支援部営農担い手支援課)	13:10～13:40
第4報告 福島県におけるGAPの推進と農作業安全 半杭 真一(東京農業大学国際食料情報学部准教授)	13:40～14:10
第5報告 JAいわて平泉のブランド米「金色の風」栽培研究会による 「ASIAGAP団体認証」取得と農作業安全対策の取り組み 小野 正一(JAいわて平泉「金色の風」栽培研究会会長)	14:10～14:40

6) コメント

- コメント1 企業の実践から学ぶことは 14:40~14:55
森田 裕之 ((一財)日本GAP協会チーフテクニカルオフィサー)
- コメント2 農家の実践と課題から 14:55~15:10
伊藤 隆弘 (神奈川県秦野市: 秦野いとう農園)
- <休憩> 15:10~15:30
- 7) 全体討論 15:30~16:40
- 8) 座長総括 16:40~16:50
- 9) 閉会の挨拶 16:50~16:55
- <*個別報告希望者がある場合は、17:00~17:30に時間設定して実施>
- 10) 交流会 (レストラン すずしろ) 17:30~19:00
(個別報告希望者がいない場合の交流会: 17:00~18:30)

6. 参加費等・申込み手続き

1) 参加費等

- (1) シンポジウム及び交流会への参加費: 5,000円
(2) シンポジウムのみ参加費: 2,000円
(3) 交流会のみ参加費: 3,000円
(4) 不参加のため資料送付を希望の場合の代金: 2,000円 (送料込)

2) 申込み手続き

(1) 申込期限と申込み先

①個別研究報告を受け付けております。ご希望の方は、氏名・所属・連絡先住所・電話・E-mail・研究報告の題目を4月15日(月)必着、報告要旨(1,000文字以内)を4月22日(月)必着で、学会事務局(1 ページ扉参照)並びに下記の北田紀久雄シンポジウム実行委員長宛(E-mail: kitada@nodai.ac.jp)にお申し込みください。

②シンポジウム参加等をご希望の方は、資料作成の準備がございますので、4月22日(月)必着で同封の返信用ハガキの該当欄に○印をご記入の上、お送りください。

(2) 参加費等は、同封の郵便振替票の該当欄に○印を付けて金額をご記入の上、5月7日(火)までに振込みをお願いします。

*非会員の方でシンポジウム等にご関心のある実践現場の方々のご参加を大いに歓迎します。

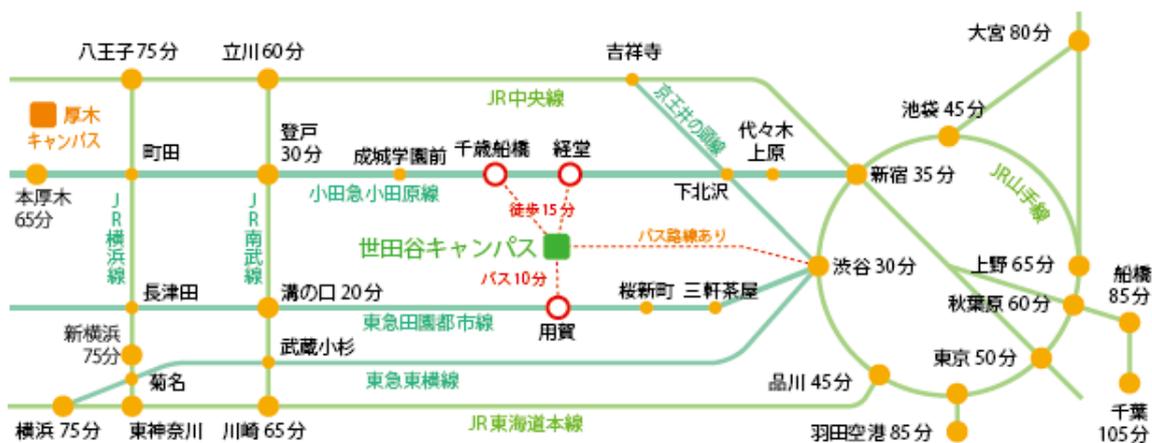
7. 大会事務局、問合せ先

本シンポジウムについての問合せは、下記までお願いいたします。

大会実行委員長 東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科 北田紀久雄

TEL 03-5477-2359 FAX 03-5477-2621 (学科事務室) E-mail kitada@nodai.ac.jp

8. 会場 東京農業大学世田谷キャンパスまでの交通経路



小田急線

- ◆ 経堂駅下車 徒歩 約15分
- ◆ 千歳船橋駅下車 徒歩 約15分
バス 約5分 <千歳船橋駅～農大前>
東急バス 渋谷駅行…(渋23) 等々力操車所行…(等11) 用賀駅行…(用01)

JR山の手線

- ◆ 渋谷駅下車(渋谷駅西口) バス 約30分 <渋谷駅～農大前>
小田急バス 成城学園前駅西口行……………(渋24) 調布駅南口行……………(渋26)
東急バス 成城学園前駅西口行……………(渋24) 祖師ヶ谷大蔵駅行……………(渋23)

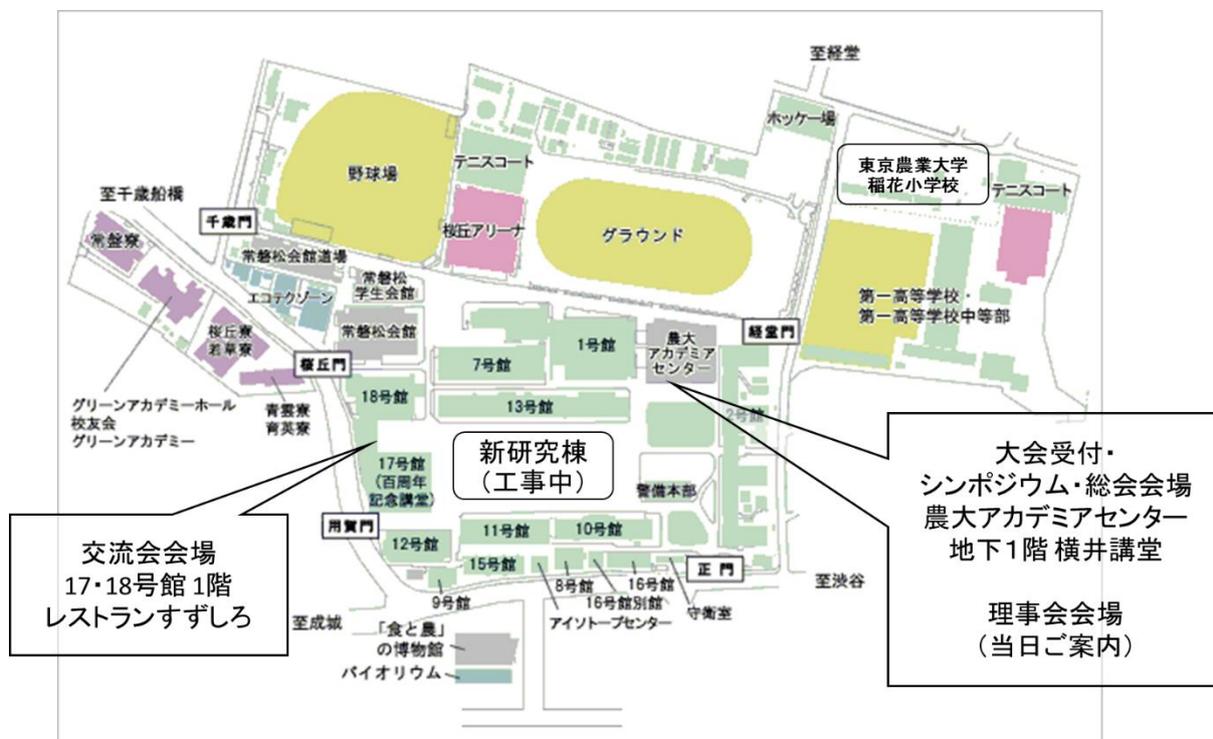
東急田園都市線

- ◆ 用賀駅下車 徒歩 約20分・バス 約10分 <用賀～農大前>
東急バス 世田谷区民会館行……………(園02) 祖師ヶ谷大蔵駅行……………(用01)

東急東横線

- ◆ 田園調布駅下車 バス 約30分 <田園調布駅～農大前>
東急バス 世田谷区民会館行……………(園02)

9. 東京農業大学世田谷キャンパス 大会会場案内図



入会状況

2019年3月18日現在の入会状況をご報告いたします。

1号 正会員・・・124名

2号 学生会員・・・ 2名

3号 賛助会員・・・ 18名

合 計・・・・・・・・・・144名

新規に本学会に加入を希望される方・その他（会員外）

「シンポジウム・交流会等への参加申込書」

送付日：2019年 月 日

日本農業労災学会事務局御中

(FAX⇒042-316-6430、E-mail⇒ kuroda@kirin-office.com)

(該当欄に○印を記入して4月22日(月)必着でお送りください)

<input type="checkbox"/>	シンポジウム及び交流会の両方に参加
<input type="checkbox"/>	シンポジウムのみ参加
<input type="checkbox"/>	交流会のみ参加
<input type="checkbox"/>	不参加のためシンポジウム資料送付を希望
会員氏名：	(カタカナ：)
連絡先住所：〒	
連絡先電話：	
連絡先FAX：	
連絡先E-mail：	

*学会事務局に「参加申込書」が到着次第、振込用紙をお送りいたしますので、参加費などの事前送金をお願いいたします。

*入会を希望される方は、本学会（ホームページアドレス：<http://jfapr.jp>）から入会申込書にアクセス頂き、入会申込書にご記載の上で本学会事務局宛にFAX等でお送りください。

以 上